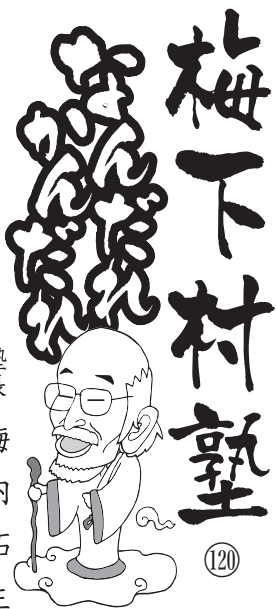


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



返句
 煙る朝 紫陽花スケッチ
 子 孫娘

(天の運行)
 休石庄太郎
 この星の公転自転の高
 速を感じるらし蟻の
 巣作り

世界のいろいろな地域で魂送りの祭りは地域文化として行われている。この魂送りの祭りの奥には地域文化を越えた共通の心が動いている。海外からの留学生たちとこの祭りを話し合ってきた。

(心づかいと希望)

岩淵 綾子

震災後二年余たてど先見えず不安増しきて眠りの浅し

優しさに満ちあふれたる而陛下被災せる吾等に希望湧きくる

心遣いは希望のちからですね！自分の詠作品が子や孫の心に触れる喜びは特別ですね。

返歌

子と孫や詠みし短歌を手にとれば 生きる喜びに滲む

(伝統と知恵)

橋爪 里美

稲妻の光で稲が実るのよ祖母より聞きし遠き日の夏

隣地に背丈短かき栗若木真白に咲きし花房の数

今日このごろの激しい雷鳴、集中豪雨、洪水

水、土砂災害のニュース報道を見聞きすると、祖母と一緒に過ごした昔の夏をおもいだす。祖母は稲妻を自然のエネルギーの恵みとして捉えていた。隣地に咲く白い花々も自然のエネルギー循環の恵みとして捉えらる。感慨深いものがある。

返句

稲妻の 遠くに響く 恵み雨

(けむる夏)

及川智香子

対岸にかかれる霞今朝 深し高き稜線見え隠れして

雨に打たれ色合ひさら に深くして露のたま弾く 額紫陽花よ

梅雨煙る朝、色とりどりの紫陽花が生き生きとした姿で咲き誇ります。孫娘は無心に紫陽花のスケッチをしています。

天垂れて突如雷鳴炸裂す荒梅雨のまま文月終はる

蟻が夢中で巣作りをしている。単の中は地球環境変化に対応した新しい巣作りであるかもしれない。現代文明は地球環境変化の何を感じて対応しようとしているのか？

返歌

ことばあり 文明文化 生み出して 今受け継がむ 自然の心

(懐かしさと歴史認識)

8月20日の第1面に「きょう盛川灯ろう流し 権現堂橋付近で」が掲載されている。小学生だった60年以上前に権現堂の少年組が七夕の山車に使った絵燈籠を河原に持ち出して、囲いを作って、そこから次々に小さな灯ろうを流したことを懐かしく思った。

短冊や灯ろうにいろいろな国の言葉で詠まれた短詩はお互いに響き合うものを持っている。これら短詩には自然と人間社会への共通の心が詠まれている。自国の政治、軍事、経済の勢力範囲を拡大するための怨念と執念とは異なる地球上でお互いに生きるための心を育てるべく深い共通する歴史認識が望まれている事を第1面の「世迷言」に述べられている。

地球上でお互いに生きるための心を育てるべく深い共通する歴史認識の育成が大切なことは「梅下村塾」に、繰り返し述べてきている。このたび、遠くに住んでいる、同級生から「梅下村塾」への応援メッセージが送られてきた。論語の「朋遠方よりきたるあり、亦嬉しからずや」をかみしめている。